

●病害虫の発生に注意

いもち病の発生が心配されます

高温多湿な天候はいもち病の発生が心配されます。葉いもち病の発生を確認したら直ちにブラシン剤またはノンプラス剤を散布し、お近くの営農センターへ連絡していただくようお願いします。

また、穂いもち対策としてコラトップ粒剤を散布しましょう。

いもち病防除剤

農薬名	倍率	散布量(10a)	使用時期	使用回数	備考
ブラシン粉剤DL	-	3~4kg	収穫7日前まで	2回以内	
ノンプラス粉剤DL			収穫7日前まで	2回以内	
ブラシンフロアブル	1,000倍	60~150ℓ	収穫7日前まで	2回以内	
ノンプラスフロアブル			収穫7日前まで	2回以内	
コラトップ粒剤	-	3~4kg	出穂30~5日前まで	2回以内	

紋枯れ病にも注意が必要です

ここ数年防除圧の低下から紋枯れ病の発生が目立つようになってきており、昨年発病した圃場や畦畔実際の稲を観察し発病が確認された場合は防除を行います。

紋枯れ病防除剤

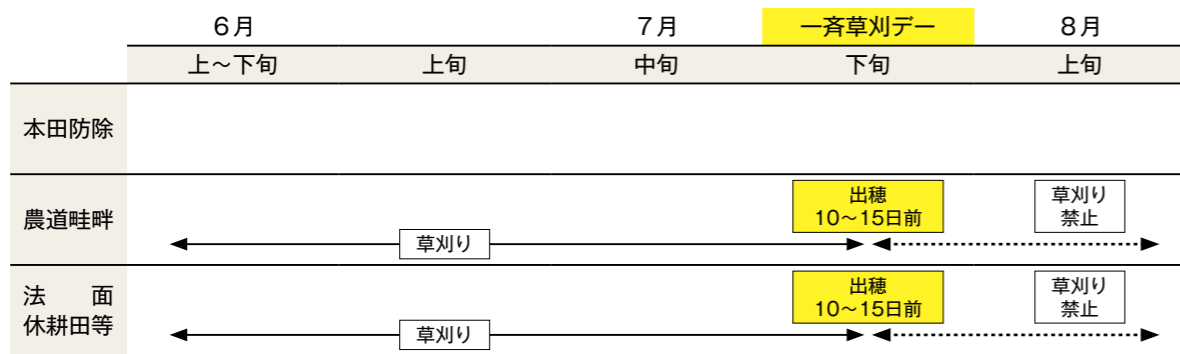
農薬名	倍率	散布量(10a)	使用時期	使用回数	備考
モンカットファイン粉剤20DL	-	3~4kg	収穫14日前まで	3回以内	
モンカットフロアブル	1,000~1,500倍	60~150ℓ	収穫14日前まで	3回以内	
モンガリット粒剤	-	3~4kg	収穫45日まで	2回以内	

●斑点米カメムシ類は圃場内と畦畔・隣接圃場の雑草管理がポイント。

斑点米カメムシ類はノビエやホタルイが好物です。これらが残草しているほ場はカメムシの巣窟となってしまいます。また、農道畦畔の雑草も併せて草刈りや畦畔除草剤の散布を行い、住処となる雑草の無いほ場を目指しましょう。

農道、畦畔の草刈りは出穂10~15日前までに数回行います。

参考：本田防除と水田周辺の草刈り時期（一斉草刈デーは次号で発表します）。



畦畔除草剤

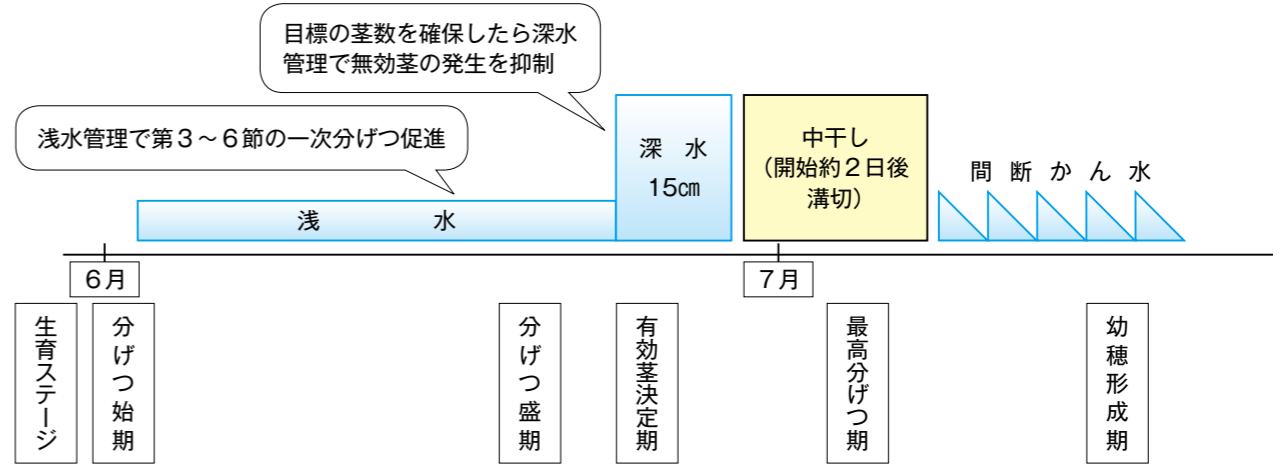
農薬名	薬液量(10aあたり)	希釈水量(10aあたり)	使用時期	使用回数	備考
バスタ液剤	500~1000ml	100~150ℓ	収穫7日前まで	2回以内	バスタ、ザクサと合計2回まで
ザクサ液剤	500~1000ml	100~150ℓ	収穫7日前まで	2回以内	
ラウンドアップマックスロード	200~500ml	50~100ℓ	収穫前日まで	3回以内	
グラスショット液剤	300~500ml	50~100ℓ	収穫前日まで	3回以内	イボクサにも効果あり

※上記剤は稲に飛散しますと薬害を生じますので、散布の際は風のない時間を選び飛散防止カバー等を使用し十分に注意して散布します。

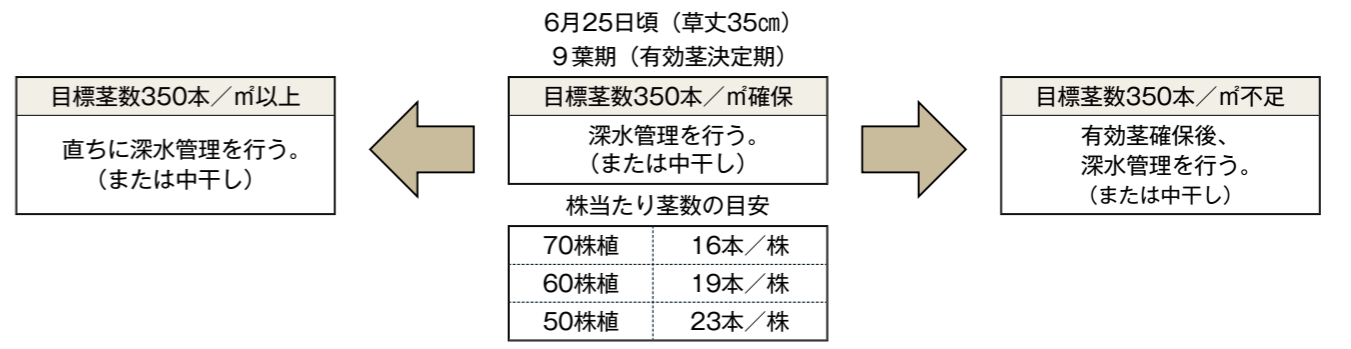
気象変動に対応した「水管理」が良食味安定生産に直結!!

- ・今年の育苗期間中は気象変動が激しく前半高温でヤケ苗や出芽不良、後半日照不足で草丈はやや短めでした。ハウス内の温度管理が難しく、1部では、催芽から緑化期までの間に高温で管理したためのみ枯れ細菌病や、田植直前に天候が回復しムレ苗などの病害も散見されました。
- ・田植以降は不順な天候が続き、6月1半月の低温の影響で、葉色が淡く分けつが遅れている圃場が見られます。
- ・予報では梅雨空が続く見込みです。浅水管理で分けつの発生を促し目標穂数の80%を確保したら中干しを行います。

○深水管理で太莖化→有効莖歩合向上→1株内穂揃良化→収量・品質の安定



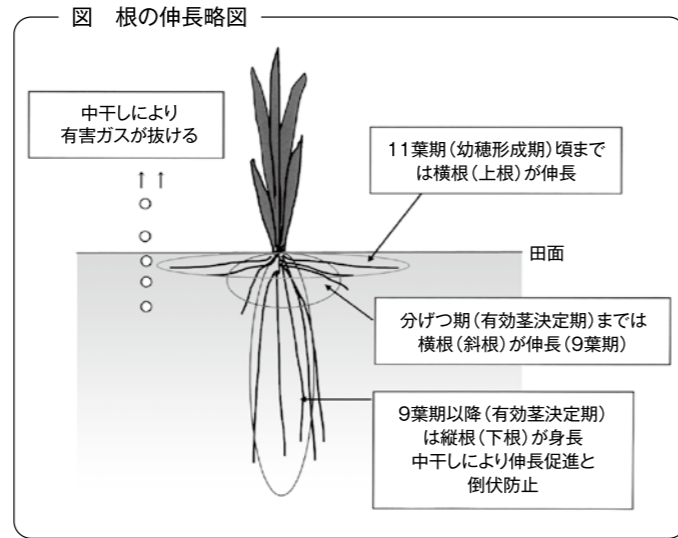
- ・6月は浅水管理とし、水温と地温を高め日気温格差を大きくし、有効莖となる第3~6節の一次分けつの発生を旺盛にして、早期に確保するよう努めます。かん水は水温の低い早朝に短時間でいきます。
- ・低水温地帯では温水田、迂回水路、ポリチューブ等を用いて積極的に水温上昇に努めます。
- ・浅水期間中の低温や強風時には、冠水しない程度(5~6cm)の深水にしてイネを保護します。
- ・有効莖決定期(6月下旬)に、目標の莖数(下記図)を確保したら、深水管理・中干しを実施します(7日~10日間)。



## ●中干しと溝切の実施

### ●中干しの効果と方法

- ① この時期に落水することにより無効分げつを抑え、茎数過多防止や葉を立て受光体勢を改善し、下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲に仕上げます。
- ② 土壌中に酸素を供給し、還元状態で生成される有害成分（二価鉄、硫化水素、有機酸）を無毒化して、新たな下根の伸長を促進し、後半まで活力を維持させます。
- ③ この時期に一度しっかり干すことで、収穫直前の落水でも容易に田面が硬くなり、刈取作業がスムーズに行えます。
- ④ 中干しの実施期間は7～10日程度とし幼穂形成期前には終了します。中干しの程度は田面に1～2cm程度の亀裂が入り足跡がつく程度とします。中干しを強くしすぎると根が切れ、生育に悪影響を及ぼすため注意が必要です。
- ⑤ 中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち根の伸長を促進させます。



### ●溝切を実施しましょう

溝切を行うと水の回りが早くなるため、より確実な水管理を行なうことができます。また、排水も素早く行うことができ、中干しの効果を高めます。登熟後半まで水を張ることができるため、登熟歩合の向上にもつながります。

溝切は中干し開始2～3日後の田面がやや軟らかい状態で行います。溝切り機が歩行型の場合はこの状態で行い、乗用型は少し水を張った状態で行うと作業がはかどります。また溝の交差した部分と水尻は必ずつなぎます。

排水不良田や田面に高低差がある圃場では溝切は必ず行いましょう。

### ●水田にノビエ・ホタルイが残ってしまった場合は中・後期除草剤で徹底防除

今年の雑草の生育は平年並みに経過しています。また斑点米カメムシ類の発生時期が早く、発生量が多いと予想されています。雑草が繁茂すると稲の生育不良や斑点米カメムシ類の住処になってしまうため、残草してしまったほ場では中・後期剤を使用し、雑草防除を徹底しましょう。

剤系	薬 剤 名	使用量 希 釈 水 量	本 剤 使用回数	使 用 時 期 使 用 方 法
ヒ エ 剤	クリンチャー 1 <sup>※</sup> 粒 剤	1kg/10a	2回以内	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで 湛水散布
		1.5kg/10a		移植後25日～ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで 湛水散布
	クリンチャー E W	100ml/10a 25～100 <sup>※</sup> ℓ	2回以内	移植後20日～ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで 落水散布(展着剤加用)
	ヒエクリーン1 <sup>※</sup> 粒 剤・豆つぶ250	1kg/10a(粒) 250g/10a(豆つぶ)	1回	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日まで 湛水散布 効果は遅効的、残効あり
広 葉 剤	バサグラン 粒 剤	3kg/10a	1回	移植後15日～55日 但し収穫60日前まで 落水又は浅水状態で散布※スポット処理可能
	バサグラン 液 剤	500～700ml/10a 70～100 <sup>※</sup> ℓ	2回以内	移植後15日～55日 但し収穫50日前まで 落水又は浅水状態で散布※スポット処理可能
ヒ エ・ 広 葉 混 合 剤	クリンチャーバスメ液剤	1000ml/10a 70～100 <sup>※</sup> ℓ	2回以内	移植後15日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで 落水散布又は浅水状態で散布※スポット処理可能
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	3kg/10a	1回	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで 浅水状態で散布
	アトトリ 1 <sup>※</sup> 粒 剤	1kg/10a	1回	移植後20日(イネ5葉期以降)ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで 湛水散布 効果は遅効的
	フォローアップ 1 <sup>※</sup> 粒 剤	1kg/10a	1回	移植後15日(イネ4葉期以降)ノビエ5葉期 但し、収穫60日前まで 湛水散布 効果は遅効的
	ワイドアタックSC	100ml/10a 100 <sup>※</sup> ℓ	2回以内	移植後20日(イネ5葉期以降)ノビエ5葉期 但し収穫30日前まで 落水又は浅水状態で散布 効果は遅効的

※有効成分ごとの使用回数は農薬ラベル等でご確認ください。

## ●今年例年より晴れの日が続く予報

気象庁から発表された長期予報によると今年の夏は気温がかなり高く、やや降水量が多い予報が発表されています。高温多湿な天候が続くと稲の軟弱化といもち病の発生が心配されます。

## ●ケイ酸質肥料を施用しましょう

ケイ酸を施用することにより稲体が丈夫になり葉が直立し受光体勢がよくなり、効率的に日光が受光されます。

また、高温時にも稲体の呼吸を促すことにより葉温の上昇を防ぎ、白未熟粒の発生を防ぎます。籾殻の結合を強くし割れ籾を抑え、カメムシ類による斑点米の発生を低下させます。土づくり肥料として春に散布していない方は必ず施用しましょう。

### 中間追肥

肥 料 名	施肥量(kg/10a)	施 用 時 期	施 用 効 果
おばこロマン大地	20～40kg	6月下旬～ 幼穂形成期まで	①倒伏抵抗性が高まる ④登熟歩合の向上 ②根の活力向上 ⑤食味の向上 ③有効茎歩合の向上 ⑥病害虫被害の軽減
けい酸加里	20kg		
P K 40号			

## ●生育状態を把握し、適切な穂肥を行います。

不安定な天候のなかでも、順調に登熟させるには、生育状況を把握し適切な穂肥を行うことが大切です。幼穂形成期(7月15日頃)に生育・栄養診断を行い、生育状況や気象予報に応じた穂肥の判断をしましょう。

### ○時期別理想生育量

項 目	時 期	最高分げつ期	幼穂形成期	減数分裂期
		7月5日	7月15日	7月25日
草 丈 (cm)	上 限	52	65	75
	理 想	48	60	70
	下 限	45	55	65
茎 数 (本/m <sup>2</sup> )	上 限	580	560	500
	理 想	540	520	470
	下 限	500	480	420
葉 数	上 限	10.0	11.5	13.0
	理 想	9.8	11.0	12.5
	下 限	9.6	10.5	12.0
葉 色 (SPAD値)	上 限	46	44	40
	理 想	44	42	38
	下 限	42	40	35

### ○幼穂形成期(出穂25日前頃)の草丈(cm)×茎数(本/m<sup>2</sup>)と幼穂伸長期間の気象予報からの診断

幼 穂 形 成 期 の 生 育 量	幼 穂 伸 長 期 間 の 気 象 予 報 別 の 追 肥 対 応		
	低温・少照・多雨	平 年 並	高温・多照・少雨
27,000未満	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回
27,000以上 30,000未満	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg	幼形期・減分期 2回で合計3kg以内	幼形期・減分期 2回で合計3kg以内
30,000以上 34,000未満	幼形期…なし 減分期…ムラ直し	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg
34,000以上	なし	なし	なし

※上記表は目安のため、詳しくは各営農センターへご相談ください。

### 追肥専用肥料

肥 料 名	施肥量(kg/10a)	施 用 時 期	備 考
おばこロマンみのり	7～13kg	出穂前15日	硫安系 15-4-15 有機20%入り
おばこロマンめぐみ			塩安系 15-4-15 有機20%入り